

県感染症情報センター

夏風邪—夏に気をつけたい子どもの感染症

声なき感染症を知る 15

夏のこの時期、子どもを中心に患者数が増加する「夏風邪」について、病気の特徴や予防法について紹介します。

▽夏風邪とは

「風邪」という病気は年中みられ、ほとんどがウイルスによるものと考えられています。「夏風邪」は、エアコンなどで体を冷やしてしまい、単に咳(せき)や鼻水がでること?と思いがちですが、これは夏に流行しているウイルスに感染したれっきとした病気なのです。

テロウイルス属のコクサッキーA群ウイルスが多く基本的には予後は良好ですが、エンテロウイルス71を原因とする手足口病は、中枢神経系の合併率が他のウイルスより高いことが知られています。患者の年齢は、ともにも5歳以下の幼児が中心です。

患者の唾液、痰、鼻水が直接あるいは触れた手から、口に運ばれることで感染します。このウイルスは腸管の中で増えるので、症状が治まっても数週間は便中にウ

すが、咽頭炎だけですむことや目が充血して痛みを伴うなど症状はさまざまです。
感染経路は、患者の咳やくしゃみを吸い込んだり、患者とタオル、コップ、スプーンなどを共有するなど、ウイルスが口から侵入することに加え、汚染したプール水から目に感染することなどがあります。患者の使用したタオルや食器類の共有は避けることが予防には大切です。

この感染症は学校保健安全法で第2種感染症に指定されていて、症状が治まってから2日を経過するまで学校や園への出席は停止となりますのでご注意ください。

ウイルス感染原因
しっかりと手洗いを

夏風邪の主なウイルスは、エンテロウイルスやアデノウイルスで、発熱、喉(のど)の痛み、発疹などで、咳などはあまりなくお腹(なか)の症状の方がやすいことが特徴です。そんな夏風邪の代表格が、ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱です。

▽ヘルパンギーナ、手足口病

ヘルパンギーナと手足口病は、いずれも発熱と口の中にできた水疱(ほう)や喉の痛みがあり、手足口病ではさらに手のひら、足の裏、おしりなどにも水疱があらわれます。原因となるウイルスは、いずれもエン

イルスが排泄(はいせつ)し、排便後やおむつを替えるときなどは注意が必要で

す。とにかく手洗いをしっかりと行うことが予防になります。

▽咽頭結膜熱

咽頭結膜熱はプール熱と呼ばれることがありますが、原因ウイルスはアデノウイルスの感染で発熱、咽頭炎、結膜炎などを起こす

【主な夏風邪の特徴と原因ウイルス】

	ヘルパンギーナ	手足口病	喉頭結膜熱(プール熱)
感染経路	せき、くしゃみなどのほか、発疹や水疱があらわれる。	せき、くしゃみなどの吸入、プールでの目からの感染。	
かかりやすい年齢	0~4歳	2~3歳	1~5歳
症状	・突然の高熱 ・口の中の水疱 ・喉の痛み ・1週間程度で自然治癒	・手のひら、足の裏、口の中に発疹 ・1週間程度で自然治癒	・高熱 ・のどが痛む ・目の充血、目やに ・下痢、腹痛 ・1週間程度で症状は治まる
原因ウイルス	エンテロウイルス属のコクサッキーA群(CA):CA2、CA3、CA4、CA6、CA10	エンテロウイルス属のコクサッキーA群(CA):CA16、CA6 エンテロウイルス71	アデノウイルス3型、4型、7型など

さい。(県感染症情報センター) 第2木曜日掲載